

特派布教巡回からの学び ～寺報三十八号巻頭言に向けて～

令和八年二月十日 加茂法話会

一、長崎県第三宗務所（老岐の島）へ、特派布教。十一月一日～十一日。写真は、十日龍養寺様

■老岐の島は、博多港から約七十六キロ、面積は佐渡の六分の一、南北にやや長い楕円形（東西約十五キロ、南北約十七キロ）、最大標高二二三メートル、県内最大級の平野があり穀倉地帯

■千七百年前の魏志倭人伝に倭に関する情報約二千文字で書き記された折、その中に一支国に関する情報五十七文字で記されている。

■十夜法要（老岐歎仏）は、中国の唐の時代の独特の節回しで、一時間の法要を七、八分で行い、一時間に、七、八座つとめる。



十夜法要(老岐歎仏)の様子



位牌堂で歓談する檀信徒



大間を背にして、特派布教の様子

二、京都府第一教区（京都市内の慈眼寺様を教場に）特派布教 十二月七日

■第六十一回成道会のつどい

■「我と大地有情と同時成道す」

■九時三十分より、成道会慶讃法要、坐禅一炷、食事作法に従った食事、法話、坐禅一炷



成道会法要



本堂にて、坐禅



本堂にて、中食（昼食）



東序脇間に特派布教

三、「われらが行持によりて、諸佛の行持見成し、諸佛の大道通達するなり。」

『正法眼蔵』「行持上」

四、加茂法話会 仏法僧の三宝が現前する場になることを誓願する

法を説かせて頂く僧侶が仏宝と成り得るか、その法が法宝と成り得るか
その力で、聴衆が僧宝と成り得るか